

国語 3 文学的な文章を読む（「都会のビーチ」）

3 次の文章は「子どもの日浅い水辺を海にして」という俳句から想像を広げることによって生まれた小説です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

（堀本裕樹・田丸雅智「俳句でつくる小説工房」による）

(注1) 封筒は向き合って立つこと、にらみ合って対立すること。
(注2) 想像力たるや、想像力といったら。

(編本 梶野・田丸 雅智「俳句でつくる小説上巻」による)

一 線部①「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書きなさい。(漢字、ひらがなのどちらでもよい)。また、それと同じ表現の技法が用いられているものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 線部②「ただ、と、おれは思う。」
- 2 線部④「ブルーシートを地面に広げ、真ん中に立てた大きなパラソルの下で涼む人」
- 3 線部⑥「猫のように素早く手を出し」
- 4 線部⑤「もっともっと前の話だと説明する。」

二 線部②「遠方に暮れた」の意味として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 どうしてよいかわ分からなくなった
- 2 同じことを繰り返していた
- 3 なつかしくなった
- 4 夜になったことに気付いた

三 次のAからCまでの「おれ」の行動や心情を、話の展開に沿って順番に並べ替えるようになりますか。A、B、Cを適切に並べ替えて書きなさい。

- A 昔のことについて、母と電話で押し問答をする。
- B 息子の遊ぶ様子を見ながら、不意に妙ななつかしさとられる。
- C 息子への申し訳なさを募らせつつ、目の前の息子を頼もしく思う。

四 線部③「なるほど」とありますが、「おれ」は何を「なるほど」と思ったのですか。話の展開を取り上げて書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

--	--	--	--

出題の趣旨

- ・ 表現の技法について理解すること
- ・ 事象や行為、心情を表す語句について理解すること
- ・ 場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えること
- ・ 場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈すること

「C読むこと」の学習においては、「構造と内容の把握」、「精査・解釈」、「考えの形成、共有」に関する各指導事項を身に付けることができるように、意図的・計画的に指導を重ねることが大切である。指導計画の作成に当たっては、各学年で説明的な文章や文学的な文章などの文章の種類を調和的に取り扱う必要がある。その際、生徒の日常の読書活動に結び付くようにすることも重要である。

文学的な文章を読み味わう際には、個々の場面や描写から直接分かることを把握するだけでなく、複数の場面を相互に結び付けたり、各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結び付けたりすることによって、場面や描写に新たな意味付けを行うことが重要である。

本問では、俳句から想像を広げることで生まれた「都会のビーチ」という作品を取り上げた。話の展開に沿って登場人物の行動や心情について捉えたり、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、登場人物の心情について考えたりするとともに、文章中に用いられている表現の技法や、登場人物の心情を表す語句について考えることを求めている。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

イ 小説や随筆などを読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする活動。

〔第2学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

イ 詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。

(参考)

〔第3学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

イ 詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。

設問一

趣旨

表現の技法について理解しているかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第1学年〕 知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

オ 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うこと。 《表現の技法》

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
3	— (正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 「比喩」、「たとえ」のように解答しているもの。 * 「比喩」、「ひゆ」、「比喩法」、「直喩」などと解答しているものも正答とする。 ② 「陽炎みたいに揺らめきながら」と同じ表現の技法が用いられているものとして3を選んでいる。		
	1 条件①、②を満たして解答しているもの	53.2	◎
	2 条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	1.1	
	3 条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	36.9	
	99 上記以外の解答	8.2	
	0 無解答	0.6	

2. 分析結果と課題

○ 解答類型3について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

- (例)
- ・ (表現の技法) 擬人法、3
 - ・ (表現の技法) 体言止め、3
 - ・ (表現の技法) 倒置、3

このように解答した生徒は、比喩、倒置、体言止めなどの表現の技法の意味や用法を適切に理解することができていない。「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称が比喩であることを理解できていないものと考えられる。また、直喩や隠喩、擬人法などの比喩の種類を整理して理解することができていないものとも考えられる。

3. 学習指導に当たって

表現の技法を理解し、表現の仕方や効果の違いについて考える

文学的な文章を読む際には、文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考えることが大切である。表現の効果については、表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えることが重要である。その際、描写の仕方や表現の技法などに着目することが考えられる。

表現の技法については、小学校での学習を踏まえ、「比喩」、「反復」、「倒置」、「体言止め」などの名称で呼ばれている表現の技法をその意味や用法と結び付けて理解し、話や文章の中で使うことが必要である。また、直喩や隠喩、擬人法など、比喩の種類について整理して理解することも大切である。

例えば、表現の技法が用いられている文を、表現の技法を使わない文に書き換え、両者を比較することを通して、表現の技法の効果を確認する学習活動などが考えられる。また、次に示す【コラム②】のように、話や文章の中で比喩が用いられているところを指摘し、比喩の種類ごとに分類して表現の仕方や効果の違いについて考えることも効果的である。

【コラム②】「C読むこと」の指導における〔知識及び技能〕の位置付けの工夫
～「表現の技法」の知識を使えるものにするために～

- 【コラム①】で示したように、〔知識及び技能〕に示されている事項は、〔思考力、判断力、表現力等〕に示されている事項の指導を通して指導することを基本としています。ただし、必要に応じて、特定の事項を取り上げて指導したり、まとめて単元化したりすることも考えられます。

表現の技法については、小学校での学習を踏まえ、中学校では、それぞれの表現の技法が「比喻」や「反復」などの名称で呼ばれていることと結び付けて、その意味や用法とともに理解し、話や文章の中で使うことが求められています。留意したいのが、表現の技法の名称と用法の暗記にとどまらず、その表現の技法がどのような特徴をもつのかを理解することで、表現の技法についての知識を使えるものにするということです。

例えば、次のような比喻の種類について整理する学習活動を、文学的な文章を読む学習の学習過程に位置付けたり、読み終えた文章を用いて取り上げて指導したりすることが考えられます。



教師

比喻表現には「直喩」、「隱喩」、「擬人法」などの種類がありましたね。「少年の日の思い出」から比喻表現を取り出して、分類してみましょう。それぞれ、表現の仕方にどのような特徴がありますか。

〔板書例〕

◎ 迷 □ 擬人法 ・ たちまち外の景色は 闇に沈んでしまい 四つの大きな不思議な斑点が 僕を見つめた。	□ 隱喩 ・ とび色のピロートの羽	□ 直喩 ・ おさぼるような ・ 焼きつくような昼下がり ・ まるで宝を探す人のように ・ まるで世界のおきてを 代表でもするかのように	◎ 比喻表現を分類して 特徴を確かめよう
---	---------------------------------	--	---------------------------------



ここでの直喩には「ような」という助動詞が使われていますが、短歌などで「ごとし」という表現もありましたね。「とび色のピロートの羽」にはそれがないので、印象が強まる感じがします。

擬人法は、人ではないものを人に見立てて表現する比喻ですね。「たちまち外の景色は闇に沈んでしまい」は、「景色」を人に見立てているわけではないので、擬人法ではないと思います。



比喻の種類ごとの特徴を捉えるには、上記の〔板書例〕のように、取り上げた表現を比較できるようにすることが効果的です。その上で、迷ったものなどを意図的に取り上げて検討する場を設定するなど、その技法の特徴と具体的な表現とを結び付けて確認することが理解を深めることにつながります。

設問二

趣旨

事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第1学年〕 知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

ウ 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。
《語彙》

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率(%)	正答
③ 二	1 1と解答しているもの	84.3	◎
	2 2と解答しているもの	6.5	
	3 3と解答しているもの	4.0	
	4 4と解答しているもの	4.8	
	99 上記以外の解答	0.0	
	0 無解答	0.3	

2. 分析結果と課題

- 解答類型2～4の反応率の合計は15.3%である。このように解答した生徒は、「途方に暮れた」という言葉を一つの慣用句として理解し、文脈に沿って意味を捉えることに課題がある。
- 解答類型2、3の生徒は、「途方に暮れる」の意味を理解しておらず、話の内容から推測したものと考えられる。また、解答類型4の生徒は、「途方に暮れる」の一部である「暮れる」から、意味を誤って捉えたものと考えられる。

3. 学習指導に当たって

文脈における語句の意味を理解しながら文学的な文章を読む

文学的な文章を読み、豊かに感じたり想像したりする力を養うためには、まず、言葉を手掛かりにしながら文脈をたどり、内容を解釈することが必要である。その際、文章の中で使われている語句に関心を持ち、語句の意味や使い方に対する認識を深めることができるように指導することが大切である。

例えば、文学的な文章を読んで新しく出合った言葉を取り上げ、辞書にある様々な意味から文脈上の意味を考えたり、別の表現に言い換えたりするなどの学習活動が考えられる。その際、語句の意味について調べたことを記録したり、その語句を使った短文を作ったりすることなどを通して、話や文章の中で使うことができるように指導することも効果的である。

設問三

趣旨

場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

イ 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること。
《構造と内容の把握》

1. 解答類型と反応率

問題番号		解 答 類 型		反応率 (%)	正答
③	三	1	A→B→Cと解答しているもの	0.7	
		2	A→C→Bと解答しているもの	2.0	
		3	B→A→Cと解答しているもの	10.1	
		4	B→C→Aと解答しているもの	62.4	◎
		5	C→A→Bと解答しているもの	3.4	
		6	C→B→Aと解答しているもの	20.0	
		99	上記以外の解答	0.2	
		0	無解答	1.0	

2. 分析結果と課題

○ 解答類型1～3、5、6の反応率の合計は36.2%である。このように解答した生徒は、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることに課題がある。

解答類型6の生徒は、Aが作品の終盤の「おれ」の行動であることを捉えることはできているが、息子の遊ぶ様子を見ている場面での「おれ」の心情の変化を捉えることができていないものと考えられる。B、Cは、いずれも息子の遊ぶ様子を見ている「おれ」の心情であるが、本文の61行目にある「水辺での遊びを満喫しているらしい息子を頼もしく思う気持ちも芽生えていた」という表現に着目して心情を捉えることができていないものと考えられる。

3. 学習指導に当たって

文章の展開に注意しながら、叙述に即して文章の内容を把握する

文学的な文章を読む際には、文章の中の時間的、空間的な場面の展開、登場人物の相互関係や心情の変化、行動や情景の描写などに注意しながら読み進めることが大切である。その際、第1学年〔知識及び技能〕の(1)「ウ 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。」との関連を図り、細部の描写にも着目しながら物事の様子や場面、行動や心情などの変化を丁寧に捉えていくことが有効である。

例えば、心情を表す言葉を取り上げてその変化をたどったり、叙述の細かな違いに注意して読み、それぞれの叙述が表している心情の違いを考えたりする学習活動が考えられる。

設問四

趣旨

場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

ウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。 《精査・解釈》

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率(%)	正答
③	四 (正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかを適切に書いている。 ② ①について、話の展開を取り上げて書いている。		
	(正答例) ・ 公園の噴水の広場で海にいるかのように遊ぶ「息子」と同じように、子供の頃の自分も想像力を働かせ、公園の水辺に海を見いだしていたこと。 ・ 息子は公園にある噴水の広場の水辺に自分なりの景色を見いだしているようだったが、子供の頃の自分も公園の水辺に海を見いだしていた。 ・ 「おれ」が幼い頃に遊んでいたと思っていた海は、実は公園の水辺だったことを「なるほど」と思った。 ・ 公園の水辺に海を見いだすことができるような子供の想像力の豊かさ。		
	1 条件①、②を満たして解答しているもの	74.2	◎
	2 条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	6.8	
	3 条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	2.8	
	99 上記以外の解答	3.2	
	0 無解答	13.0	

2. 分析結果と課題

○ 解答類型2について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 子供の想像力がすごいということ。
- ・ 水辺に海を見出していたこと。
- ・ 水辺に海を見出していたのは、どうやら息子だけではなかったらしいこと。

このように解答した生徒は、「おれ」が何を「なるほど」と思ったのかを適切に書くことはできているが、話の展開を取り上げて書くことができていない。

○ 解答類型3について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 海というのはずいぶん縁の遠い存在だったと感じて、小さかった頃のことを思い出したこと。

このように解答した生徒は、話の展開を取り上げて「おれ」の心情を書くことはできているが、「おれ」が何を「なるほど」と思ったのかを書くことができていない。

3. 学習指導に当たって

話の展開を捉えて内容を解釈し、作品を読み味わう

文学的な文章を読み味わう際には、個々の場面や描写から直接分かることを把握するだけでなく、話の展開を捉えて、複数の場面を相互に結び付けたり、各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結び付けたりすることによって、場面や描写に新たな意味付けを行うことが大切である。その際、作品の特性に応じて、第1学年〔知識及び技能〕の(1)「オ 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うこと。」や、第2学年〔知識及び技能〕の(2)「イ 情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと。」などとの関連を図ることが有効である。

例えば、物語の結末などについて、複数の場面を相互に結び付けたり、各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結び付けたりして解釈し、それぞれの考えを伝え合う学習活動が考えられる。その際、どの描写と描写とを結び付けて考えるかによって解釈も多様になるであろうことを踏まえ、自分の解釈の根拠を考えたり、他の読み手の解釈と比較したりすることが、文章を深く理解したり作品がもつ魅力に迫ったりすることにつながる。具体的な授業のアイデアの一例を次に示す。

授業アイディア例 話の展開を捉えて内容を解釈し、作品を読み味わう

【課題の見られた問題と学習指導要領における内容】

設問三 正答率 62.4%

〔第1学年〕思考力、判断力、表現力等 C

イ 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること。

設問四 正答率 74.2%

〔第1学年〕思考力、判断力、表現力等 C

ウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。

教材

- 堀本裕樹・田丸雅智『俳句でつくる小説工房』（令和4年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語³）
- 教科書や学校図書館にある書籍に掲載されている文学的な文章など

学習の流れ

第1時

① 学習の見通しをもつ。



教師

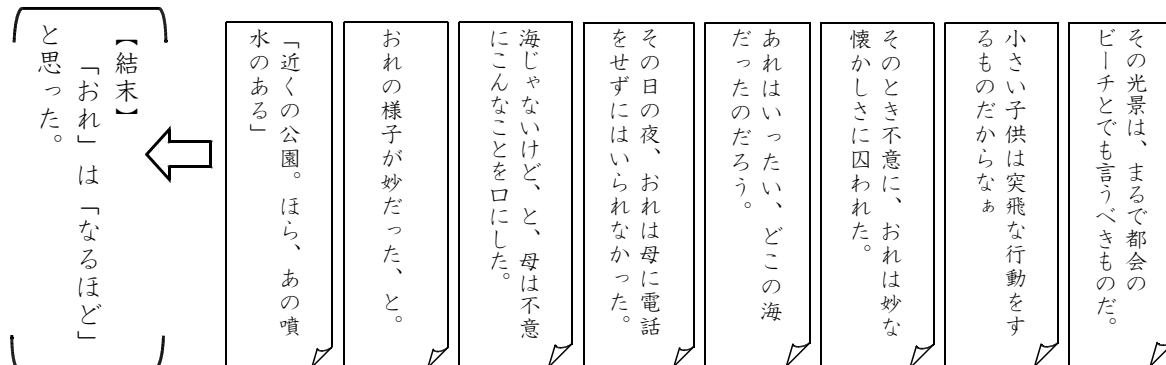
小説を読み味わうためには、話の内容や展開を正しく捉えることが大切です。場面や描写を相互に結び付けて、結末での登場人物の心情を解釈する学習をします。展開を整理しながら「都会のビーチ」を読んでみましょう。

② 各自で「都会のビーチ」を読み、「結末」に至るまでの話の展開の中で重要だと考える場面や描写を付箋に書き写す。

※ ②～⑤について、ICT 機器のホワイトボード機能を活用して学習することも考えられる。

③ グループで、②で書いた付箋を時系列になるように整理し、分かったことや気になったことについて交流する。

〔グループで整理した付箋の例〕



〔生徒の発言の例〕

「おれ」のある一日のことが描かれている話だと分かりました。大きく分けると、息子を連れて行った公園での場面と、夜になって「母」に電話した場面が描かれています。



「おれ」は、途中で「あれはいつたい、どこの海だったのだろう。」という疑問をもっていますね。なぜ、急に疑問をもったのか、気になります。

第2時



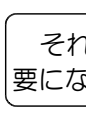
「結末」に至るまでの話の展開をグループごとにまとめて発表します。話の展開を説明するために、特に必要であると思われる描写を選び、選んだ描写と描写とのつながりについて説明できるように準備しましょう。

- ④ ③で整理した付箋の中から、「結末」に至るまでの話の展開を説明する上で必要な場面や描写を選ぶ。

〔生徒の発言の例〕



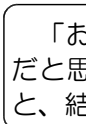
「結末」を確認しておきましょう。最後の一文は「水辺に海を見出していたのはどうやら息子だけではなかったらしい。」ですが、「息子だけではなく、おれもだった。」ということですね。



それなら、「息子」の行動についての描写と、「おれ」の記憶についての描写が必要になりますね。



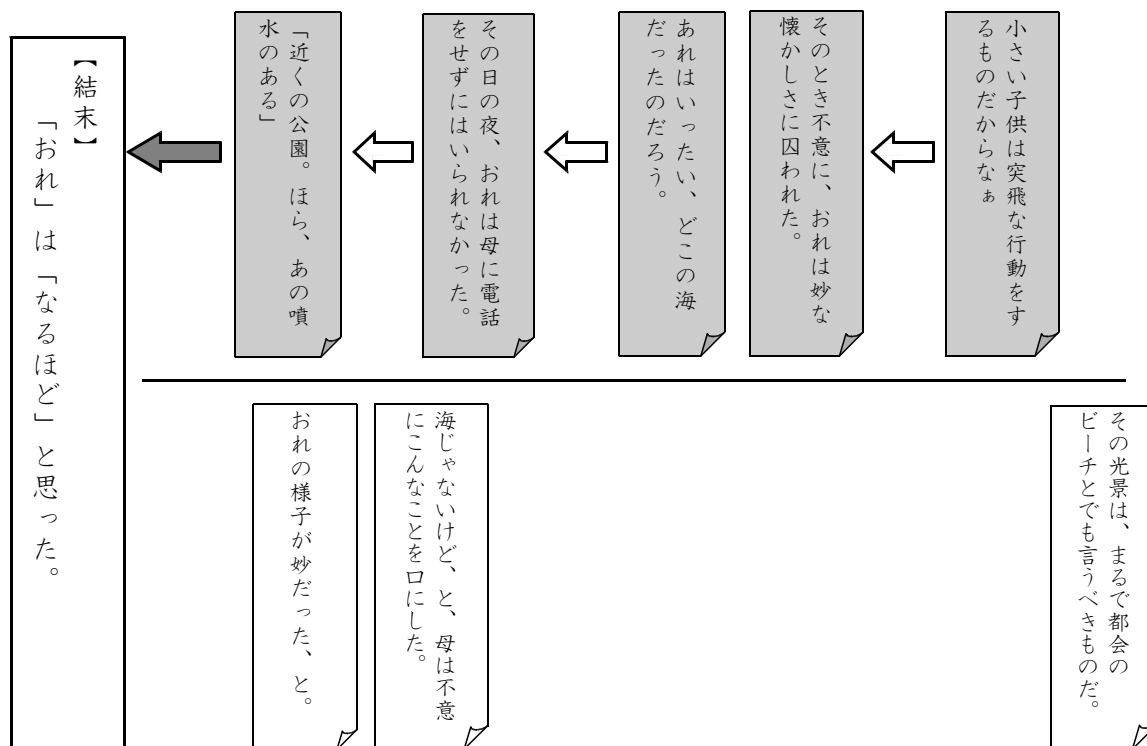
それが分かったのは、「母」との電話でのやりとりがあったからなので、電話の場面も必要です。「おれ」が「母」に電話をしなかったら、この結末にはならなかったと思います。



「おれ」と同じタイミングで読者も「なるほど」と思えることが、この話の面白さだと思います。描写と描写とのつながりに気を付けて、話の展開を丁寧に見ていくと、結末がどういうことなのか、だんだん分かってきますね。

- ⑤ グループごとに、④で話し合った結果を基に、「結末」に至る展開について説明できるように、付箋を使って整理する。

〔グループでまとめた付箋の例〕



ポイント

③の活動を行ってから④、⑤の活動を行うことが、話の展開を捉えた上で、根拠を明確にしながら解釈することにつながる。

⑥ グループごとに、「都会のビーチ」の「結末」を話の展開を取り上げて説明する。



「おれ」は公園の水辺で突飛な行動をする息子を見て、妙な懐かしさに囚われます。幼い頃に行った海での記憶を思い出し、「あれはいったいどこ海だったのだろう」という疑問が生まれ、「母」に電話で確かめようとします。「母」との電話のやりとりから、自分が海だと思っていたのは、時々行っていた、噴水のある近くの公園での出来事だったということが分かりました。

つまり、「水辺に海を見出していた」のは「息子」だけではなく「おれ」もだったということが分かり、それが「なるほど」という「結末」につながっていると考えました。

⑦ 他のグループの発表も踏まえて、「おれ」が何を「なるほど」と思ったのかを各自でノートにまとめる。

【生徒がまとめたノートの例①】

「おれ」が「なるほど」と思ったのは、自分自身の幼いときの様子を母に聞いたときに、自分の息子がしていた「突飛な行動」の意味が分かったからだと思った。誰もが幼いときには想像力を働かせて遊んでいることに気付く、「なるほど」と思ったのだろう。

【生徒がまとめたノートの例②】

「おれ」は母親とのやりとりを通して、幼い頃の自分も我が子も、ただの公園の水辺に海を見出していたことに驚き、「なるほど」と思ったのではないだろうか。噴水のある公園を、「まるで都会のビーチ」と例えていたり、「都会のビーチ」という題名を付けたたりしているのも、「なるほど」になげようとしたのではない。

【他学年で活用する際のポイント】

教科書や学校図書館にある書籍などに掲載されている文学的な文章からふさわしいものを教材として取り上げ、以下のように指導することが考えられる。

- 第2学年で、「C読むこと」の(1)イの指導事項について指導する場合には、②～④で、登場人物の言動に注意して読み、それらが話の展開などにどのように関わっているかを考える場面を設定することなどが考えられる。
- 第3学年で、「C読むこと」の(1)イの指導事項について指導する場合には、④で、登場人物の行動の意味を考えたり、⑦で登場人物と自分との考え方の違いを確認する場面を設定したりするなど、文章を対象化して、吟味したり検討したりしながら読むように指導することが考えられる。

※出典等

堀本裕樹・田丸雅智『俳句でつくる小説工房』(2017年10月 双葉社) による。